南風原花織の種類

①南風原両面浮花織

両面に浮かせた糸で柄を構成。絹糸や毛糸等で織られます。
・タッチリー　・十字花織　・喜屋武八枚　・南風原ロートン織　・南風原紹織　・ヤシラミ花織など、多様な両面浮花織があります。中でも、タッチリー、十字花織、喜屋武八枚、喜屋武六枚、南風原ロートン織は南風原独特な名称です。

タッチリー

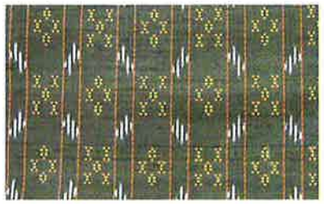
十字花織

喜屋武八枚

南風原ロートン織

②クヮンクヮン花織（緯（よこ）浮織）

クヮンクヮンとは、獅子舞が、毛を揺らして躍る様を「シーシクヮンクヮン」 というように、織布裏に遊び糸が出ている様を表しています。南風原独特の名称です。



表

裏

③チップガサー（手花織・縫取織）

経糸をすくい穴を開け色糸を入れます。チップガサー・チップガスとは、穴を開ける所作を表したもので、南風原独特な名称です。

表

裏

④南風原斜文織（綾織）

色糸を使い立体感を出す斜文織と、照屋という地名のついた格子模様の照屋八枚、変わり斜文という独特な織りがあります。

変わり斜文織

照屋八枚

南風原花織の歴史

沖縄の紋織（沖縄では花織）は、タイ、インドネシア、フィリピン等の南方諸国及び中国系統の紋織技法が沖縄に導入され、その各種の紋織技法はやがて庶民の生活にとけ込み、独自の紋織文化にまで発展したと言われています。
南風原町では、明治の頃から花織の技法を母から娘へ伝承した形跡があり現在も改良されながら織り続けられています。明治期に織られた花織手拭（ハナウィティサージ）を出征する兵士へ贈り、持ち帰ったその花織手拭を、昭和の初めまで使用していた事がわかっています。

大正3(1914)年4月、**南風原村立女子補習学校**が設立され、熊本県から招かれた金森市六氏のもとで、大勢の村内婦女子が花織、斜紋織等を習得しました。その成果は大正3(1914)年12月13・14日の沖縄毎日新聞に見ることができます。女子実業教育品評会概観で南風原の生徒の作品に花織花ヤシダミ、八ツ橋織、浮織等の記述があり、南風原の仲里カミ、大城ウサが花織で一等賞を獲得しています。その後、大正7(1918)年1月13日の沖縄朝日新聞にも、「南風原村立女子補修学校が優秀」の見出しで展覧会での受賞者に南風原の婦女子の名前が連なっています。それらの技術は先代から伝わる花織の技術も手伝って、クヮンクヮン織、チップガサー、タッチリー、十字花織、喜屋武八枚、照屋八枚、ロートン織など独自の花織、浮織の技法を展開してきました。

その後は、**宮平に金森工場、山川に秋山工場、照屋の第一工場、本部に第二工場、など**が建設され、絣、壁上布、花織など多種多様な織物を産出し、本土移出にも拍車が掛かり南風原の織物産業も盛況でした。しかし、昭和17(1942)年に各工場は軍部に接収され、その生産を停止させられるに至ったのです。

沖縄戦では南部の中心にある南風原は激しい戦場となり、人口の約44%を失うほどの被害が出ました。それでも生き残った人達が、いち早く生活の基盤を立て直し再び織物の生産に励んだのです。戦前から織物産地として発展の途上であった南風原にとって、工場の日本軍による接収、生産停止、さらに戦火による材料や道具の焼失はもちろん、生産者や技術者たちの戦死は、その後の伝統産業の再建にどれだけの痛手であったか計り知れません。戦火をくぐり抜けたわずかな生産者たちと、技術の記憶をたどり、貧窮生活の中からあらゆる材料をかき集めました。

戦後の混乱も次第に落ち着きを見せた頃、沖縄各地の織物産業も活発になりました。米軍統治下の頃、基地に住むアメリカ軍人・軍属のアジア文化への興味、沖縄の工芸品への造詣は深く、日本文化と特徴を異にする沖縄の工芸品や芸能は、国内でも重宝され、沖縄の工芸品は沖縄の復帰を望む声と共に県外でも多数紹介されるようになりました。そのことが南風原、また沖縄全体の織物産業の励みになり、今日までその技術を残してきたと言えるでしょう。

昭和30年代の一時期に色毛糸を使って大量に生産された両面花織の着尺や花織手巾は琉球舞踊家にも人気があり、本土移出も盛んでした。戦後復帰までの南風原はこのように琉球絣の産地「かすりの里」として知名度を確立してきました。

南風原花織は絣織物に比べると生産量は少なく、その陰に隠れるようなかたちではありましたが、独特な組織織など多様な南風原花織も確実に産地に存在し、その需要は高まっていました。その技術・技法は、これまで親から子へ、そして孫へと継承されてきたのです。しばらくして、県外より機械織りの安価な商品が入ってくると、それらの生産量は衰退していきました。しかし、その後も地域の人達の生産活動は続けられ、昭和58(1983)年には「琉球絣」が通産大臣より「伝統的工芸品」に指定され、次いで**「南風原花織」**も平成29(2017)年に経済産業大臣より指定を受けました。

南風原の織物は、**糸綜絖作り**にも特徴があります。花織製作にも効率よくその技術が活かされていると言えるでしょう。